

## LEQ 集団活動プログラム《カタルト》

タイトル	カタルト
大ジャンル：	言語
中ジャンル：	コミュニケーション
小ジャンル：	ストーリーテリング
使う道具：	カタルト、お題カード
場所	室内
人数	1人～5人（1グループ）
内容	さまざまな接続詞が記載されたカード「カタルト」を使って、物語やお話を繋いでいく言語コミュニケーション向上を図るプログラム

### 5領域

健康・生活	運動・感覚	認知・行動	言語・コミュニケーション	人間関係・社会性
		○	○	○

### 【流れ（20分）】

時間	内容	児童の予想される行動	支援員の動き
00:00	正座をして開始の挨拶 支援員「今から活動を始めます。礼。」 児童「お願いします」  開始の挨拶後にグループ分けを行う。	・正座、姿勢の崩れ	・正座ができているかどうかの確認、姿勢の崩れがあった場合は口頭で伝える。
03:00	各グループのスタッフがカタルトのルール説明を行い、活動に取り組む。  以下、ルール  1、提示されたお題カードに合わせ発言をする。 例：お題「私の好きな食べ物は〇〇です。」→「私の好きな食べ物はケーキです。」 2、発言した後にカタルトカードを引いて、接続詞にあった話を展開する。	・ルール説明中に手遊びや支援員に顔を向けていない様子  ・お題の回答について考え込んだり、その後の接続詞の文章が出てこない、または同じような言葉しか出てこないことがある。	・ルール説明の際にルールをしっかりと聞いているかの確認を行う。必要であれば児童に質問を投げかける形で確認をする。 ・各グループにスタッフがついて、お題選定して提示するなど、円滑に進められるようにする。 ・2のルールにおいてカードを引く枚数は各グループの対象児童の年齢や能力に応じて変更す

	<p>例1：カ「もし」→「もし目の前にケーキがあったら食べてしまいたいです。」</p> <p>例2：カ「でも」→「でも、食べすぎると虫歯になってしまいそうで怖いです。」</p> <p>3、1で提示したお題でグループの全員が答え終わると、別のお題を提示して繰り返していく。</p> <p>4、後述するアレンジパターンを活用し、各グループにあった活動にしていく。</p>		<p>る。(3～5枚)文章を想像したり、発言が難しかったりする児童がいる場合は例のような文章を伝える。</p>
17:00	<p>今回の活動の振り返り・まとめを行う。</p>	<p>・振り返りで、楽しかった、難しかったと感想を述べる。</p>	<p>・児童の言葉を拾いながら振り返り、まとめにつなげていく。</p>
20:00	<p>正座をして終了の挨拶 支援員「これで活動を終わります。礼。」 児童「ありがとうございました。」</p>	<p>・正座、姿勢の崩れ</p>	<p>・正座ができているかどうかの確認、姿勢の崩れがあった場合は口頭で伝える。</p>

### 【実施のポイント】

- ・児童の興味関心を高められるような声かけをする。  
→活動へのモチベーションの維持を行えるようにする。
- ・児童のスキルに合わせた内容を意識する。  
→学年や年齢でグループ分けを行い、それぞれの児童にあった内容に合わせて、簡単な接続詞やお題を選択する。

### 【アレンジパターン】

- 1、カタルタカードタイムアタック  
→8～10枚のカタルタカードを消費する時間を競うゲーム性のあるもの
- 2、全員でつなぐ  
→お題の回答から児童一人ずつにカタルタカードを出して聞き、2～3周するもの
- 3、物語をつなぐ  
→「私は桃太郎です」などのお題カードから物語を作っていくもの